



だまし絵を描かないための 要件定義のセオリー

2018/10/25
赤 俊哉

自己紹介

ホームレス寸前から、下請けプログラマー、SEとしてIT業界に入る。SIの立場で数々の悲惨なプロジェクト体験後、ユーザー企業（劇場）の情報システム部門に着任。

全社のシステム化を推進した後、業務現場にて営業・飲食事業・座席予約管理業務のマネージメント、BtoCビジネス等を担当。

現在は全社のIT戦略とともに、業務改革、データ経営の推進、データモデリング/プロセスモデリング等、業務管理全般に従事。

週末の楽しみは末っ子のましゅーとの散歩。

自己紹介（2）

著書に

『システム設計のセオリー』（リックテレコム）、
『SE職場の真実』（日経BP）がある。



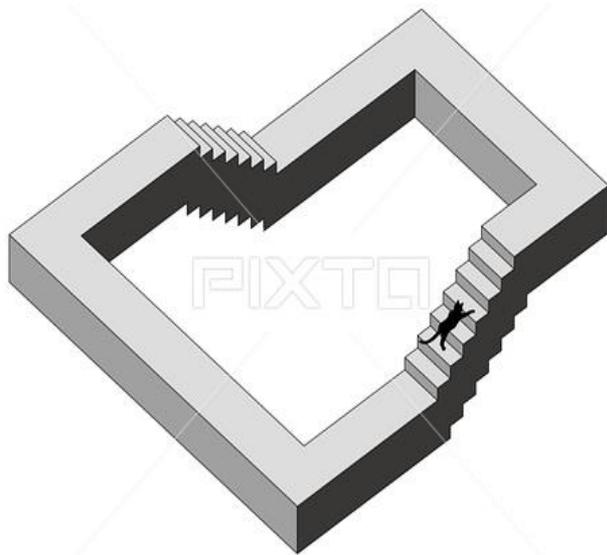
自己紹介（3）

併行して「ポップカルチャー×伝統芸能×パフォーマンス×IT」を融合した全く新しいショーを作り上げ、プロデューサーを務める。

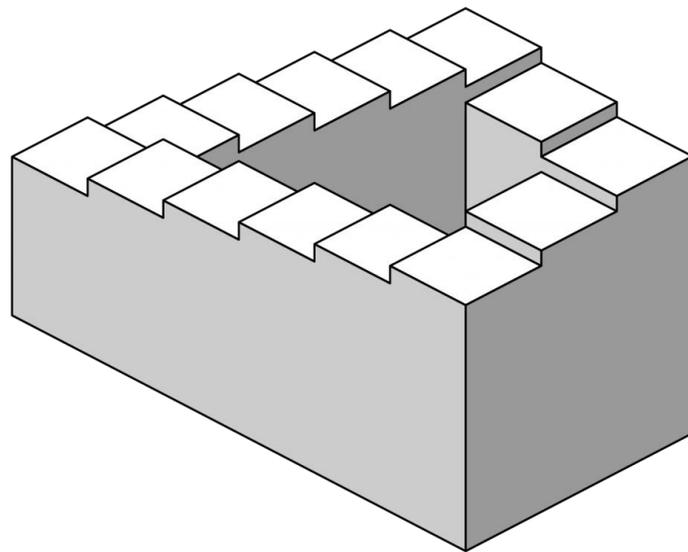




だまし絵とは



pixta.jp - 5751181



要件定義とは？

システム開発における要件定義とは、

一般的には

「要求分析結果を基にシステムで
実装すべき制約を明確にし、

『要件』として確定すること」

を指す。

要件定義がうまくいかない理由

- ① やるべき事にみあう、十分な時間が与えられていない
- ② 難しくて非現実的（やろうとしてもできない）
- ③ 前工程で決めるべきことが決まらない
- ④ やらなくてはいけないことが形骸化している
- ⑤ やらなければならないことを共有するのが難しい

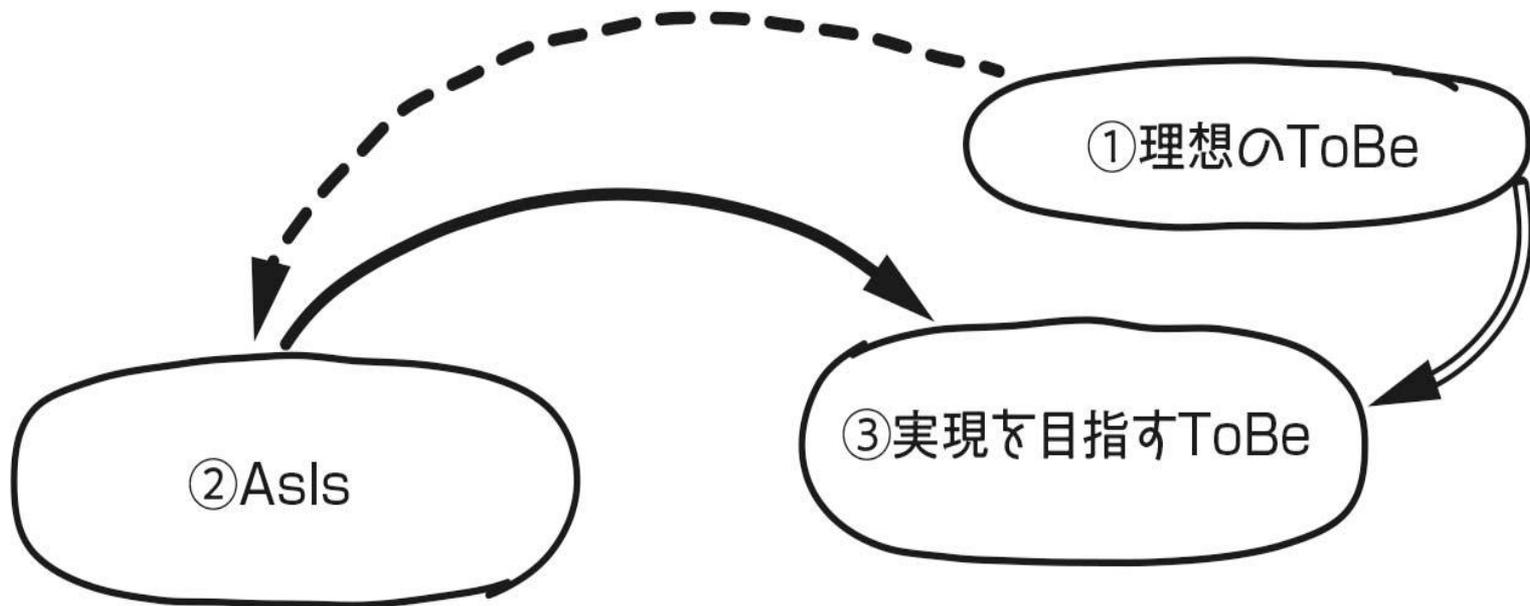
『要件定義のセオリー』方針

要件定義を成功させるために

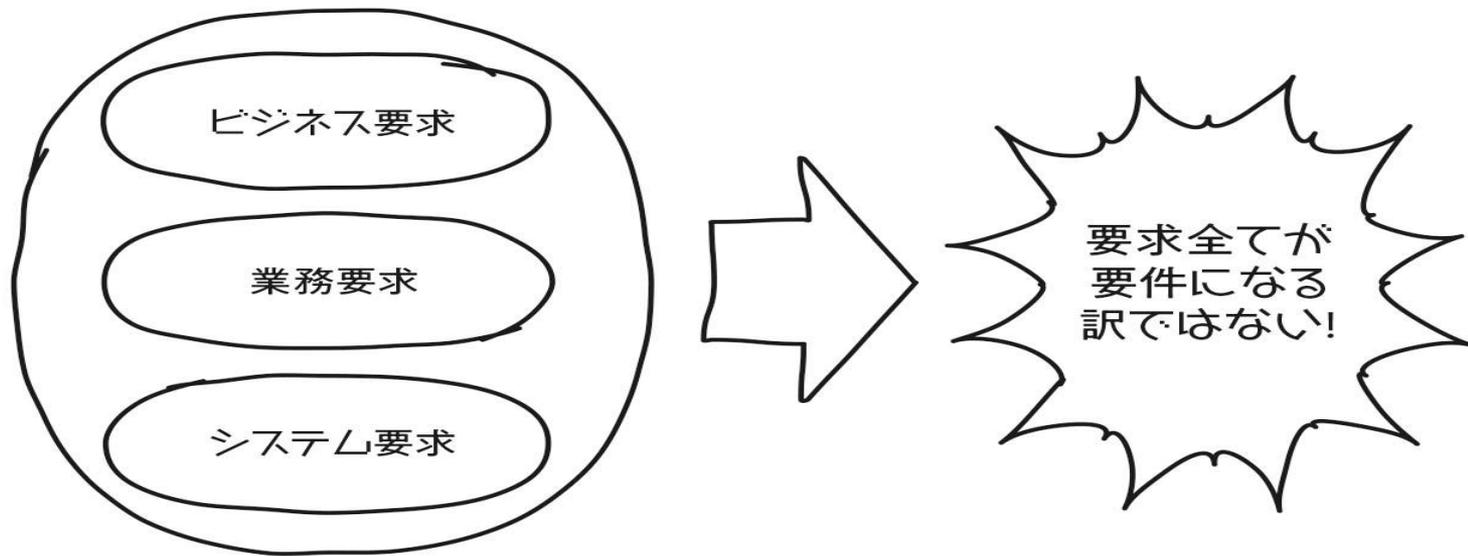
「最小の管理（成果物）で
最高の成果を出す」

ことを目的とする

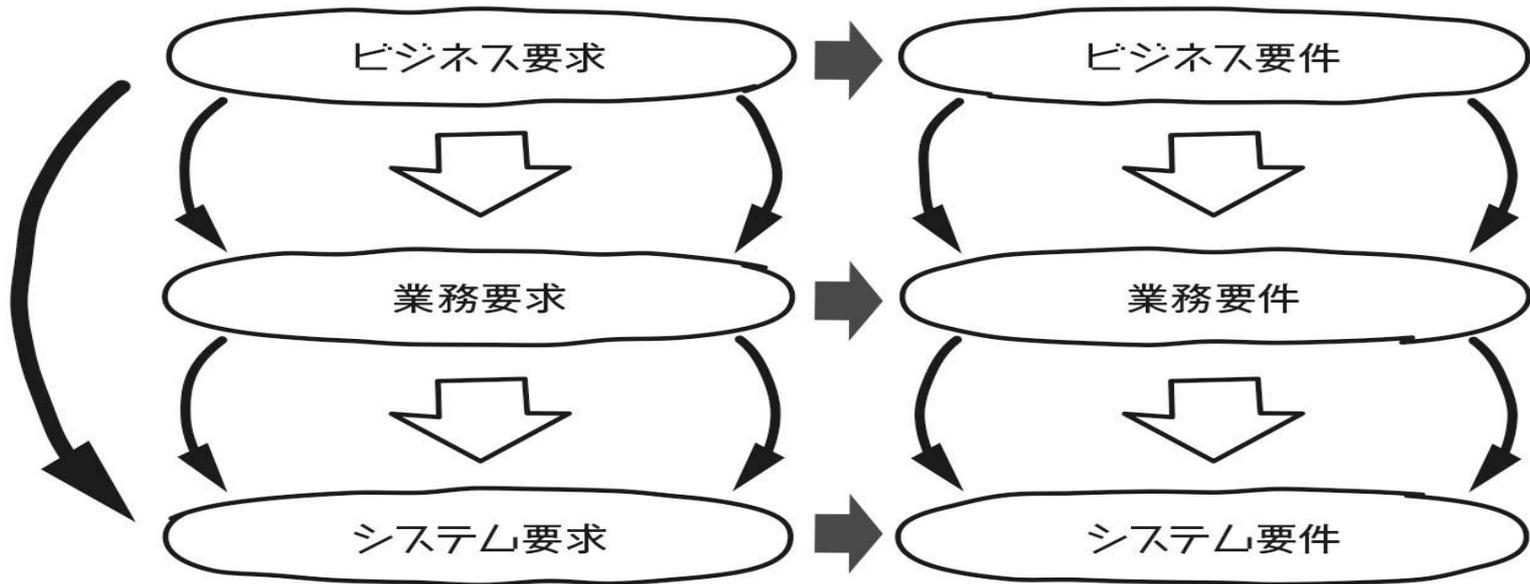
TobeとAsis



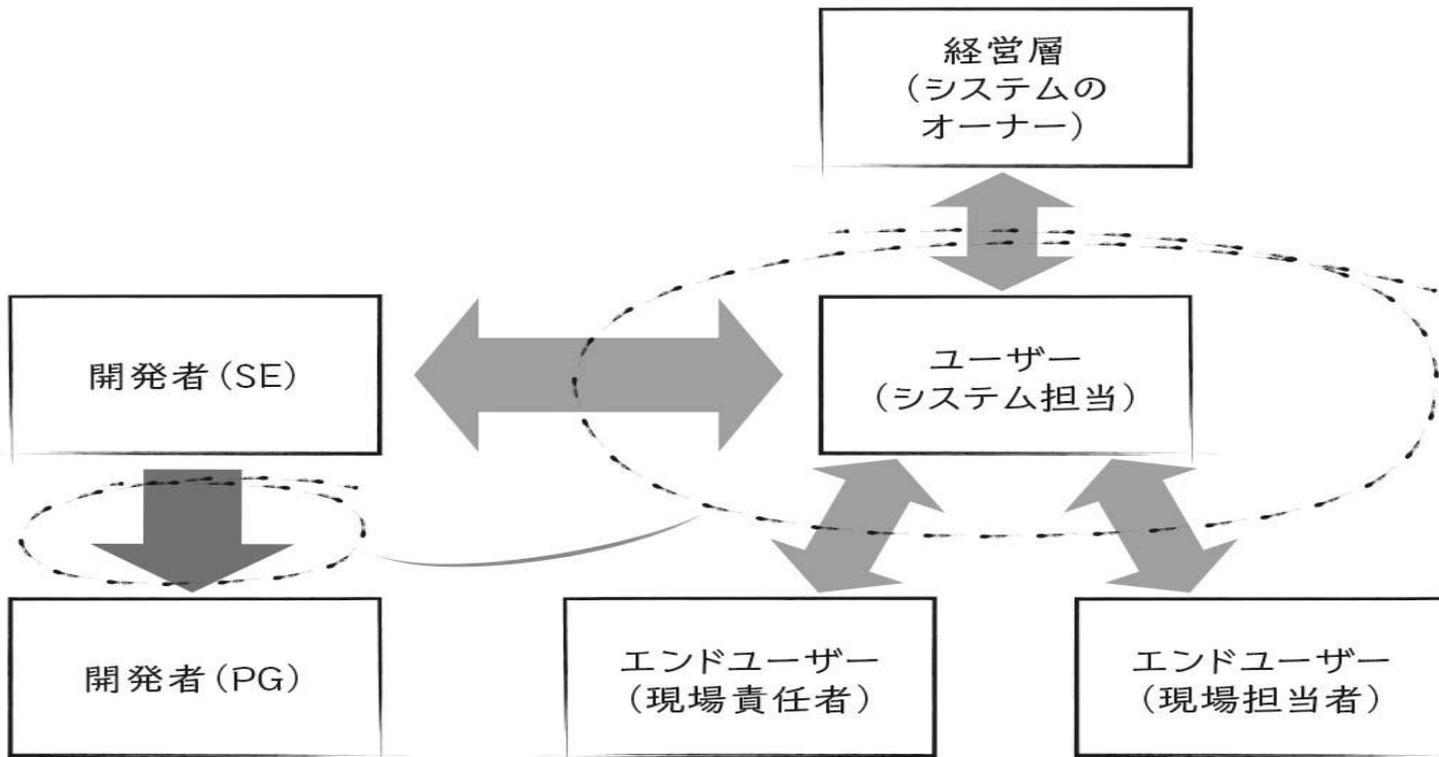
「要求」と「要件」



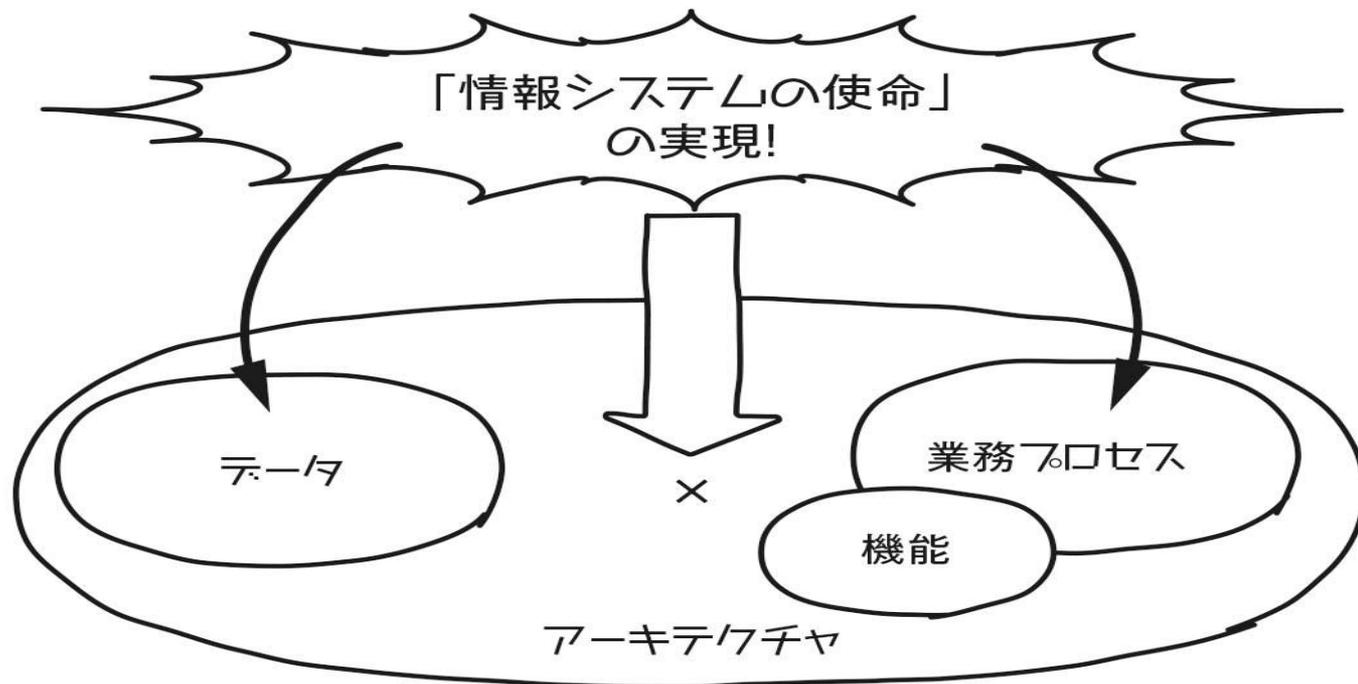
「要求」と「要件」



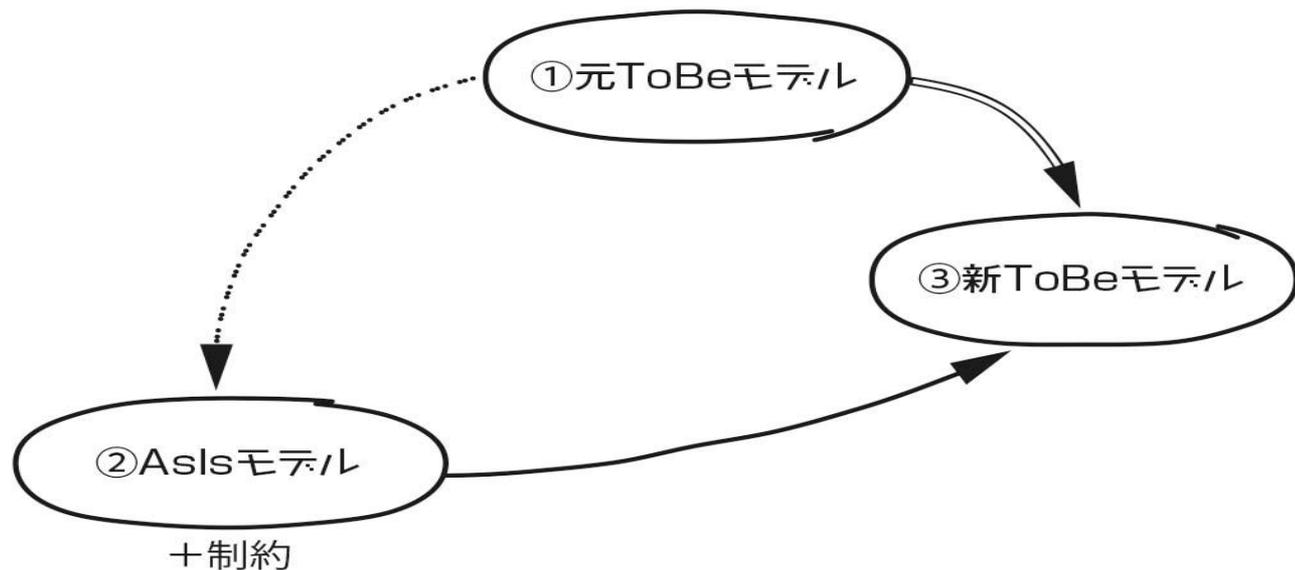
コミュニケーションが大事！



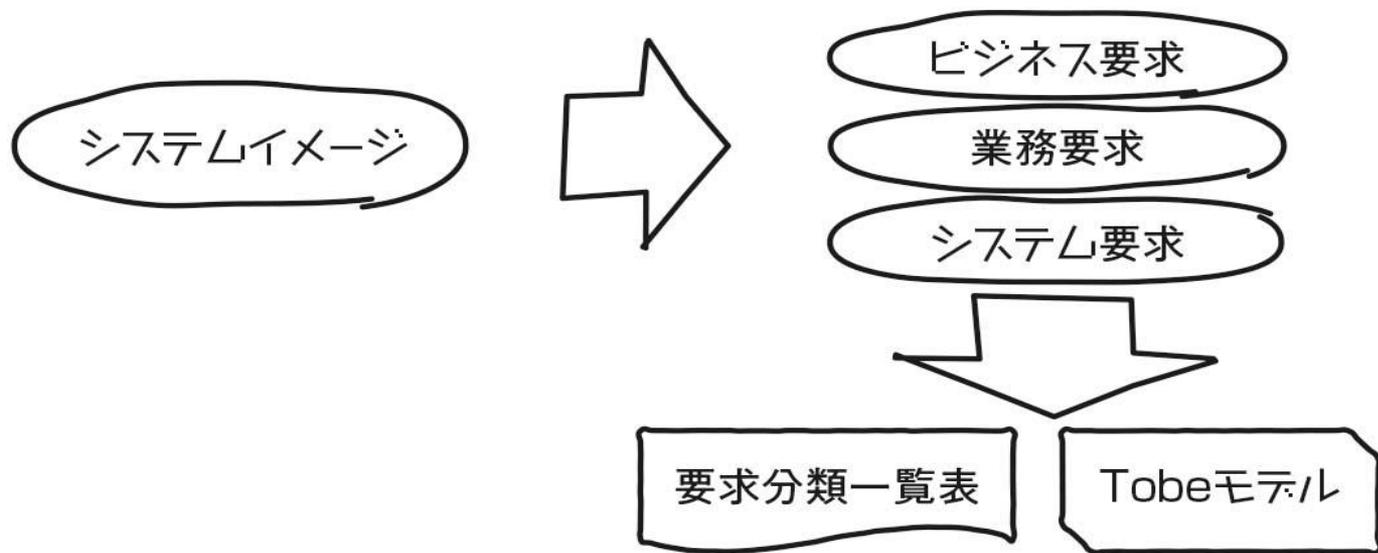
情報システムの使命



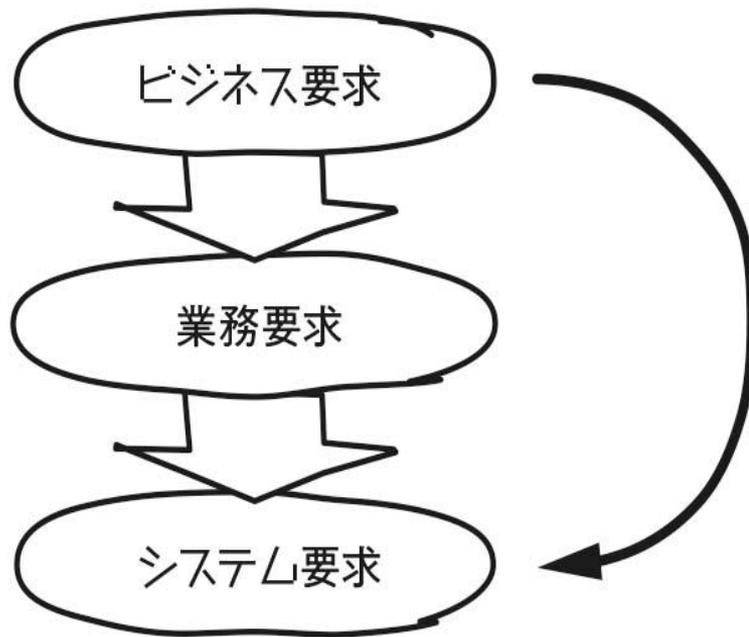
要件定義の前に行うべきこと



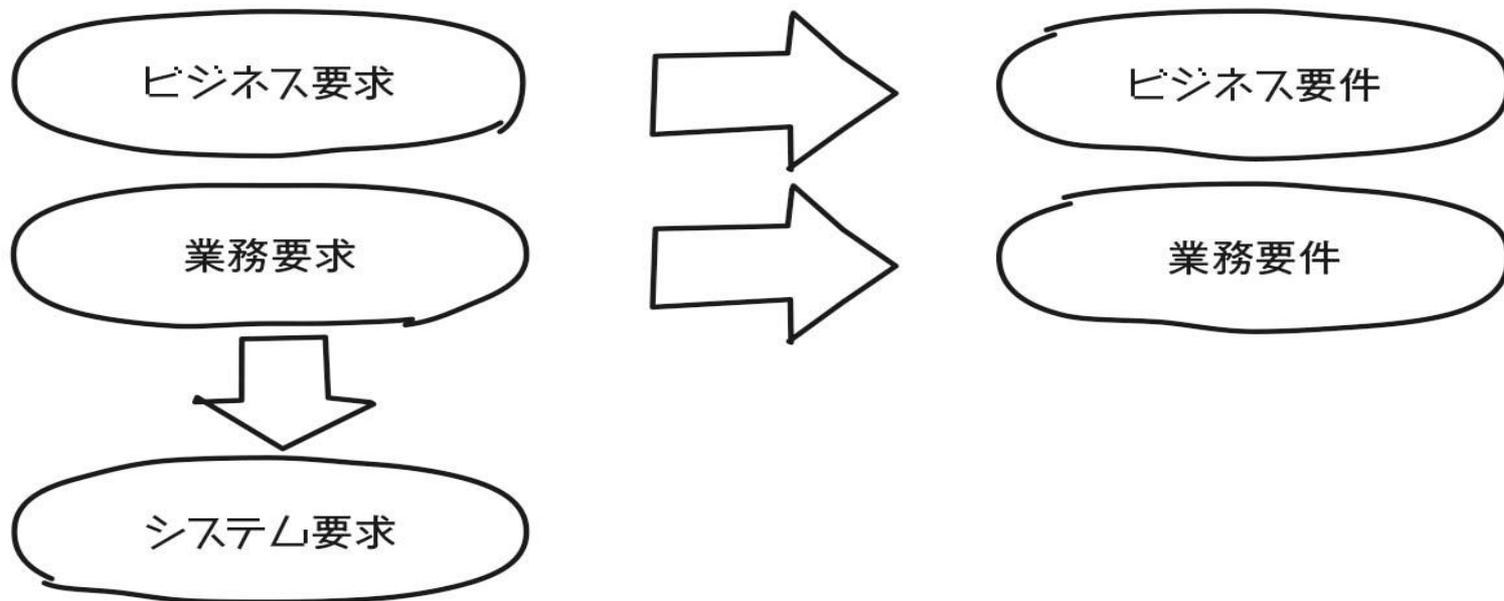
要求の洗い出し



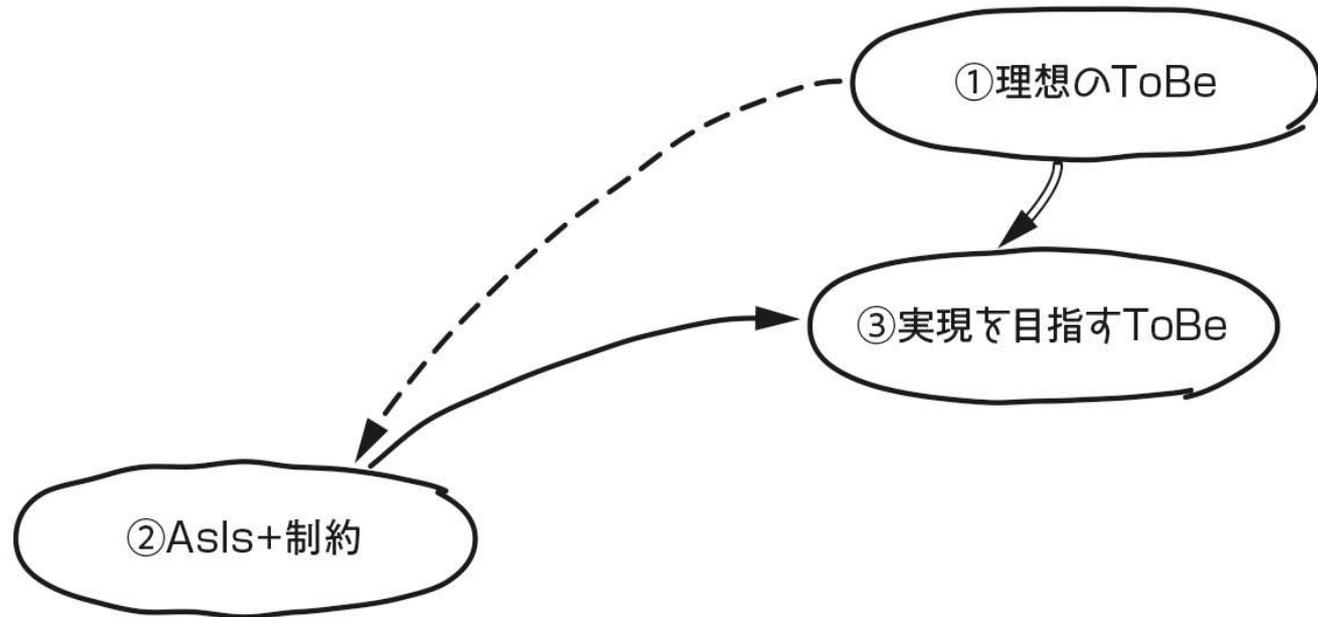
要求のブレイクダウン



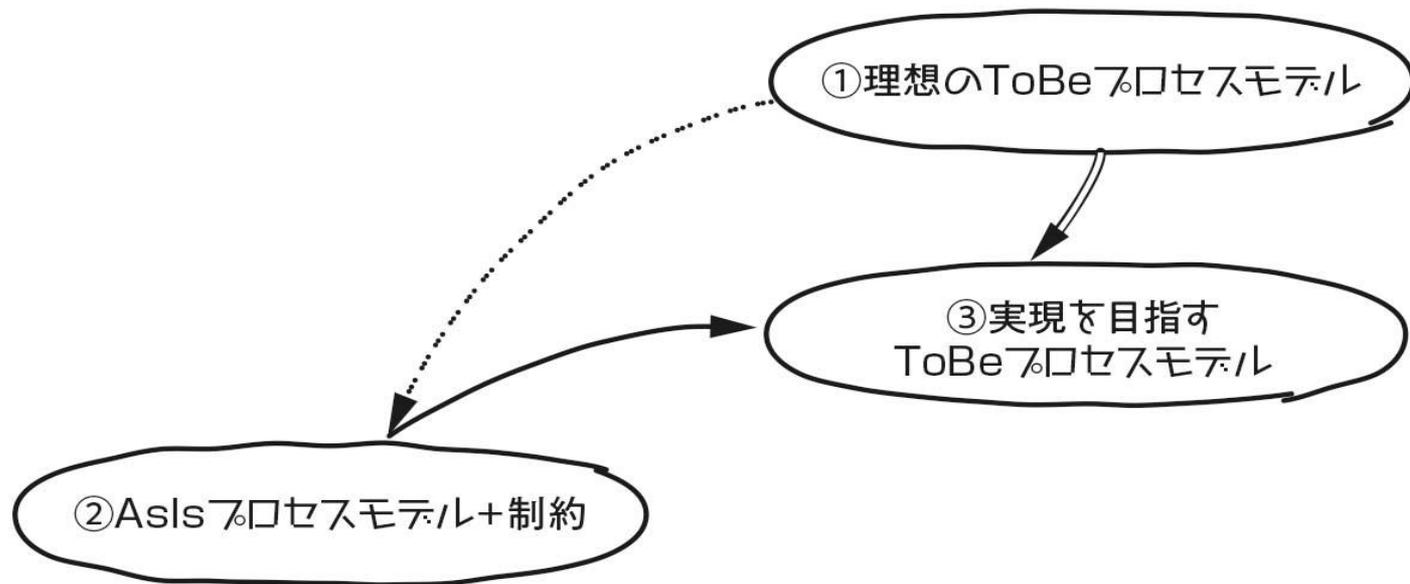
要求から要件へのスライド



要件定義の位置づけ



プロセスモデルの要件化

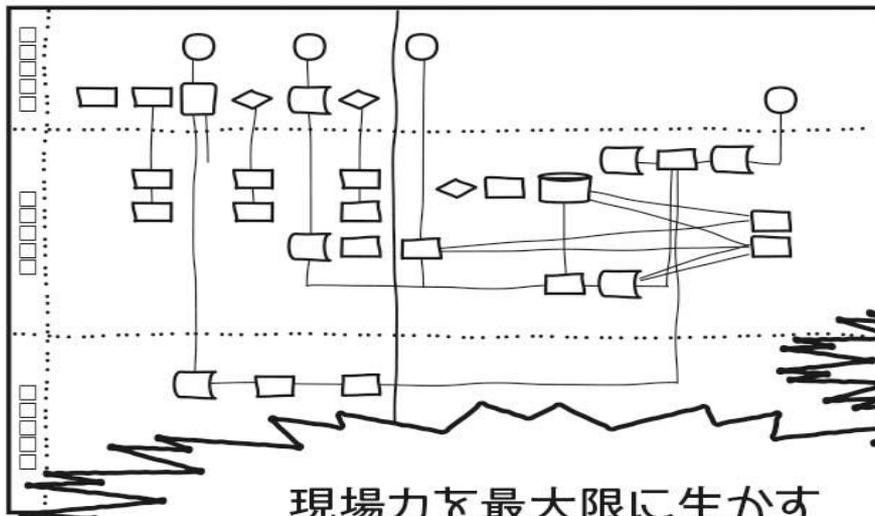


技術者でなくともわかる表現を！

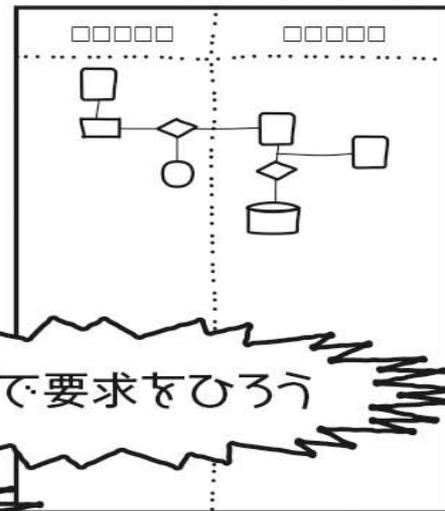
わかりやすい業務フローこそ有効!

→特に「エンタープライズ」系では!

概要A3横



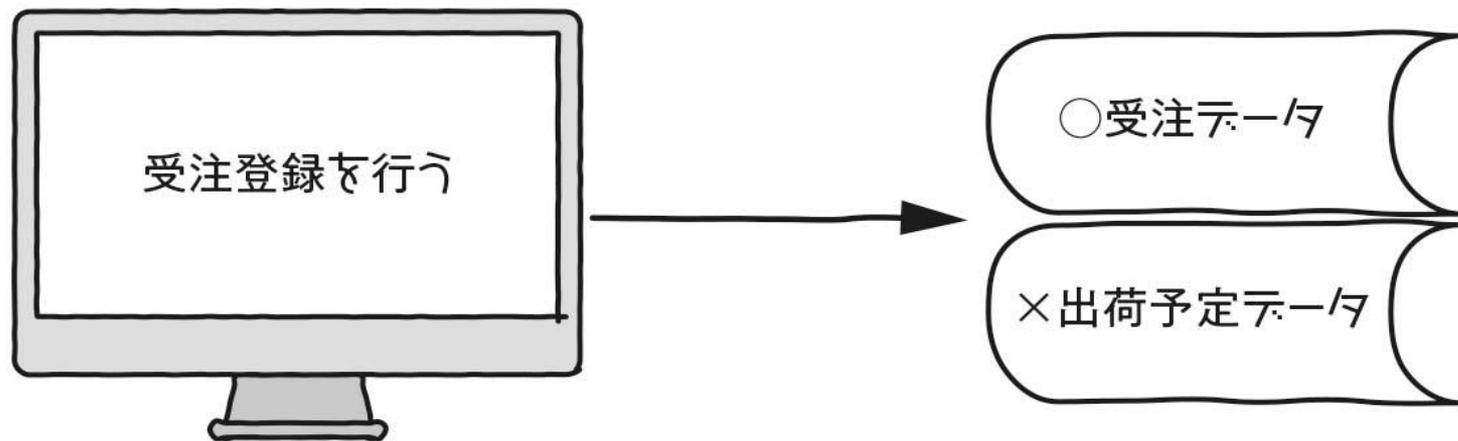
詳細説明A4縦



現場で要求をひろう

現場力を最大限に生かす

業務フローより発生データをとらえる！



業務プロセスをアイコンで表す！

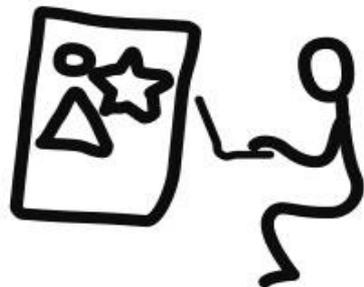
～を入力する



～を運ぶ



資料作成
を行う



電話対応
を行う

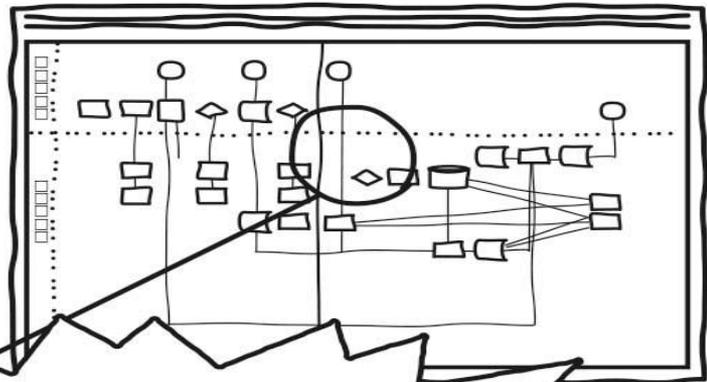


現場の視点にたって表現する！



業務プロセスの定義

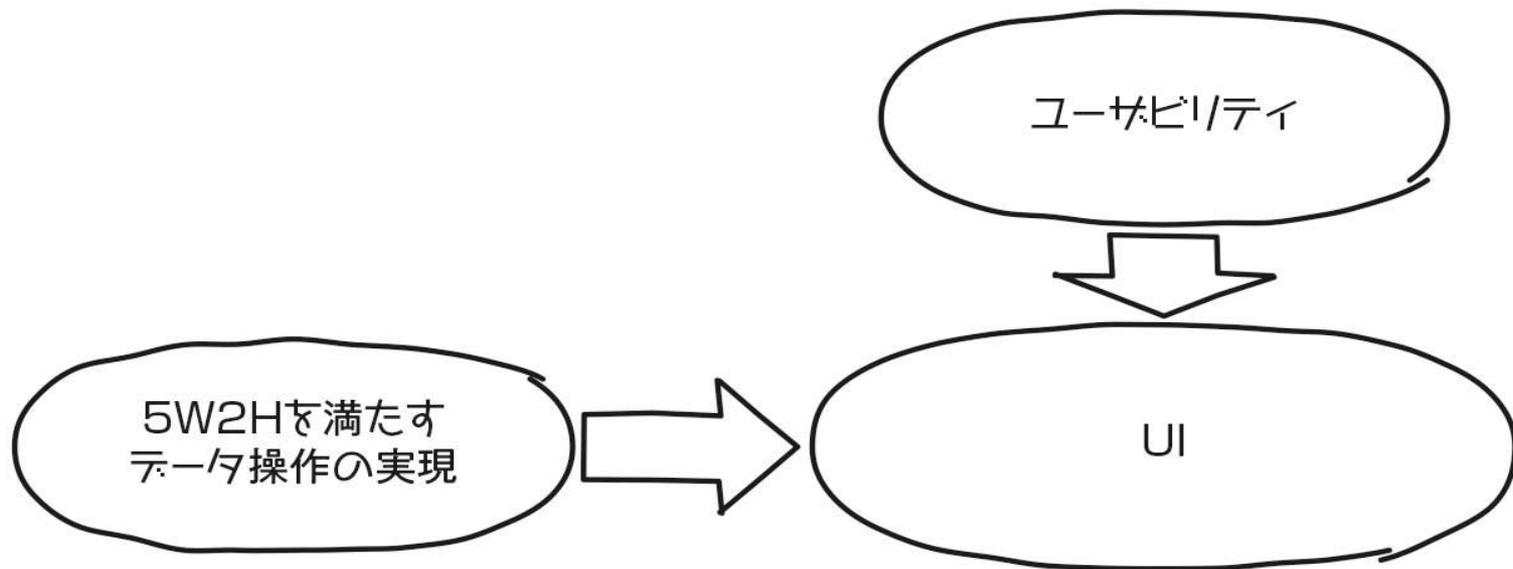
When	:実施タイミング
Where	:場所(組織)
Who	:担当者、ユーザー
What	:対象データ
Why	:目的、狙い
How	:実施要領
How many	:データ量、時間



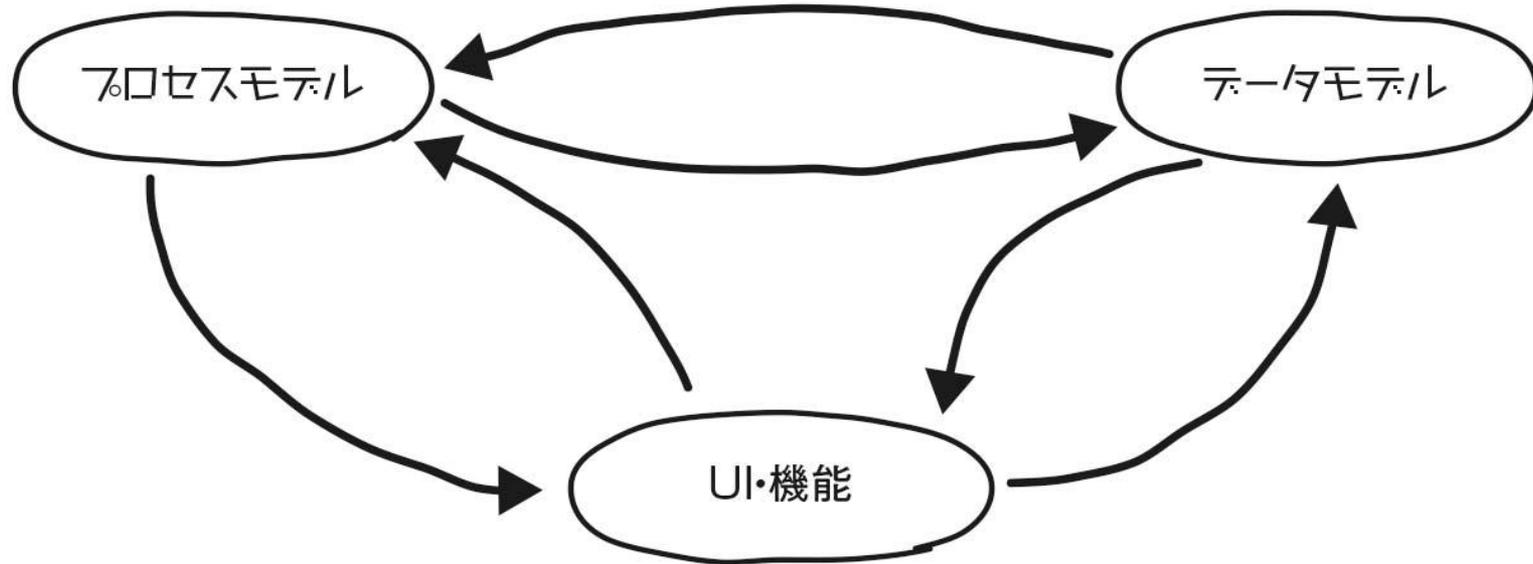
各プロセスに対して
5W2Hを定義!

《プロセス定義》

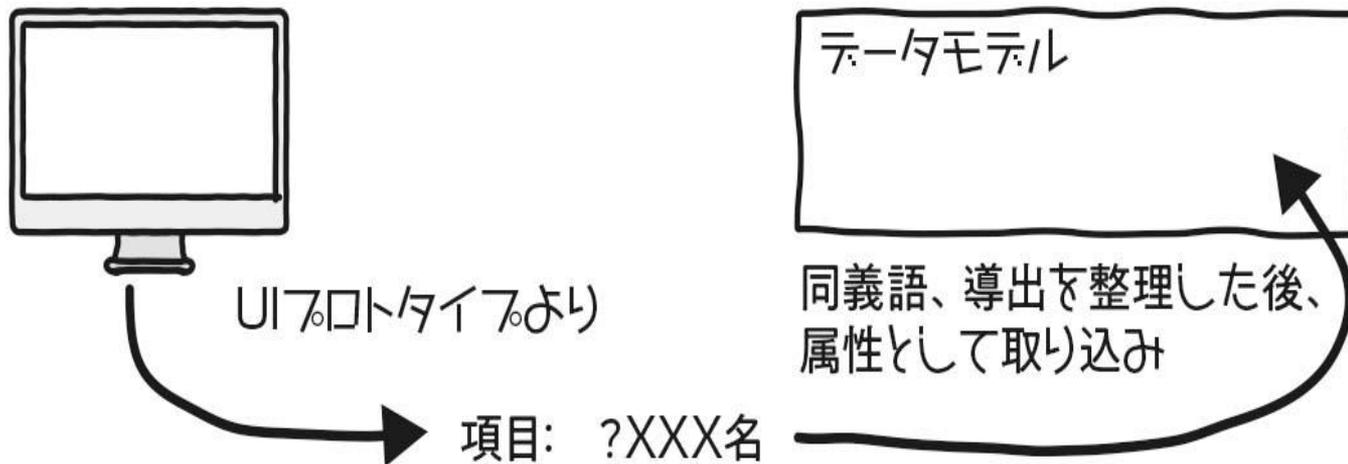
UI・機能要件の明確化



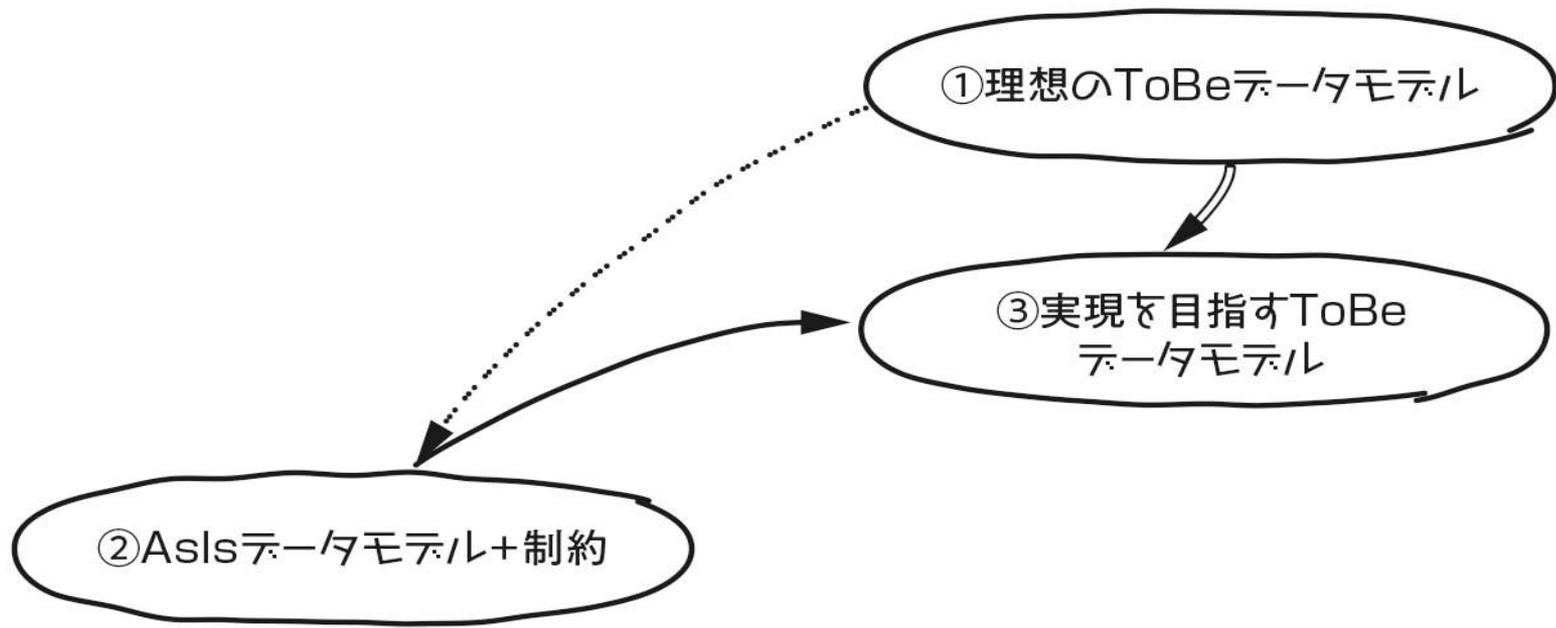
UI・機能とモデルとの関係



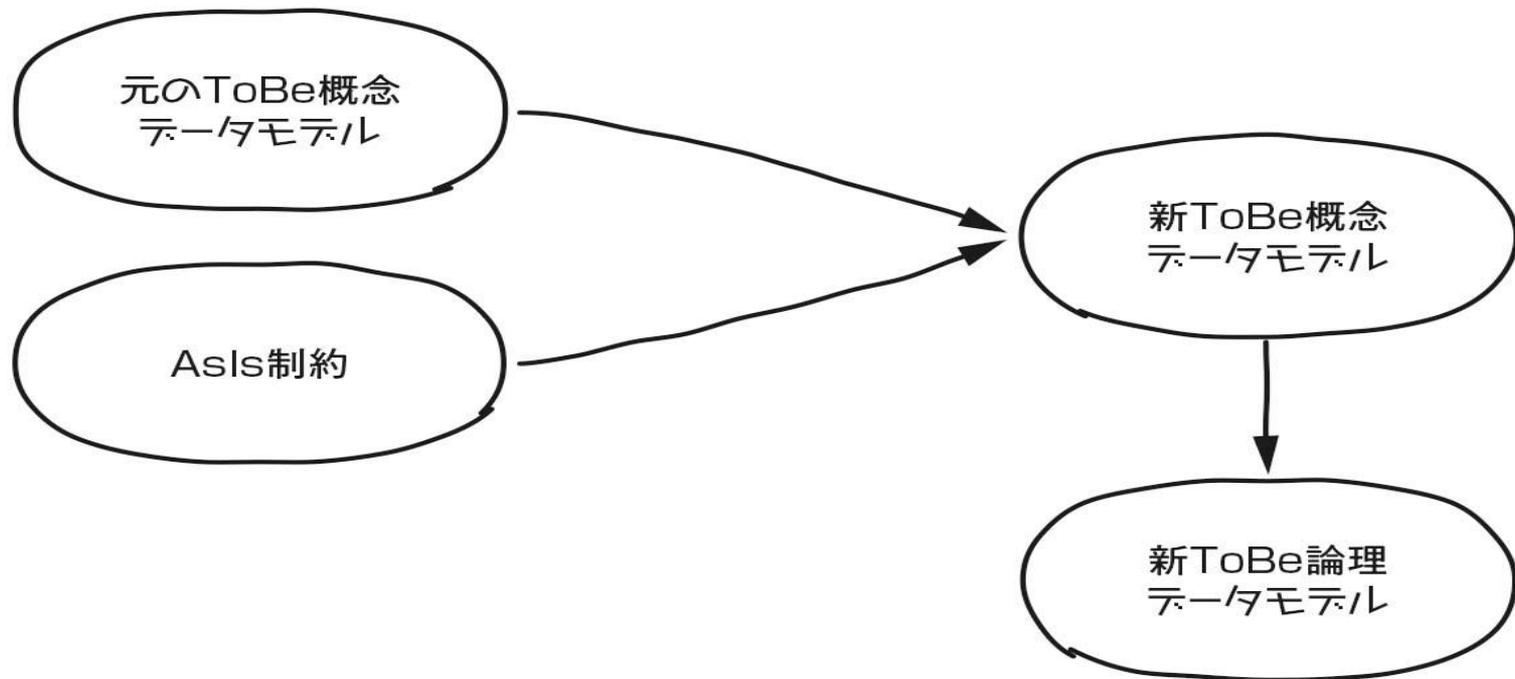
UIプロトタイプより属性を抽出



データ要件の明確化



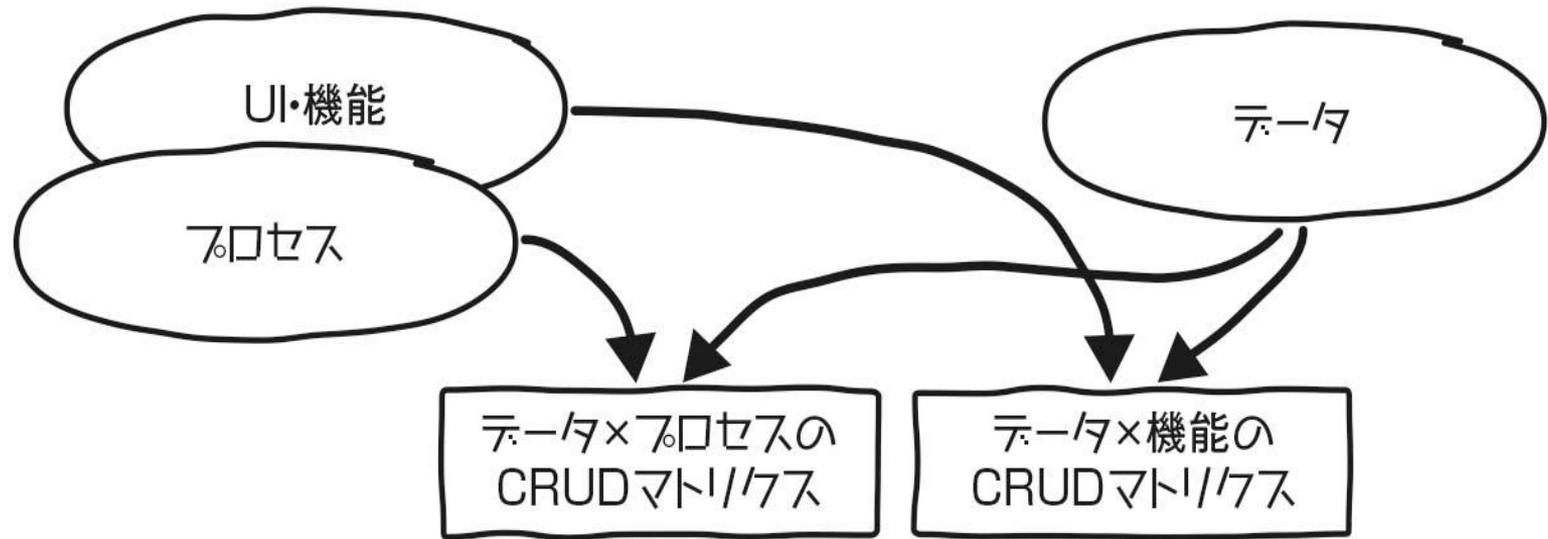
データモデル作成の理想の形



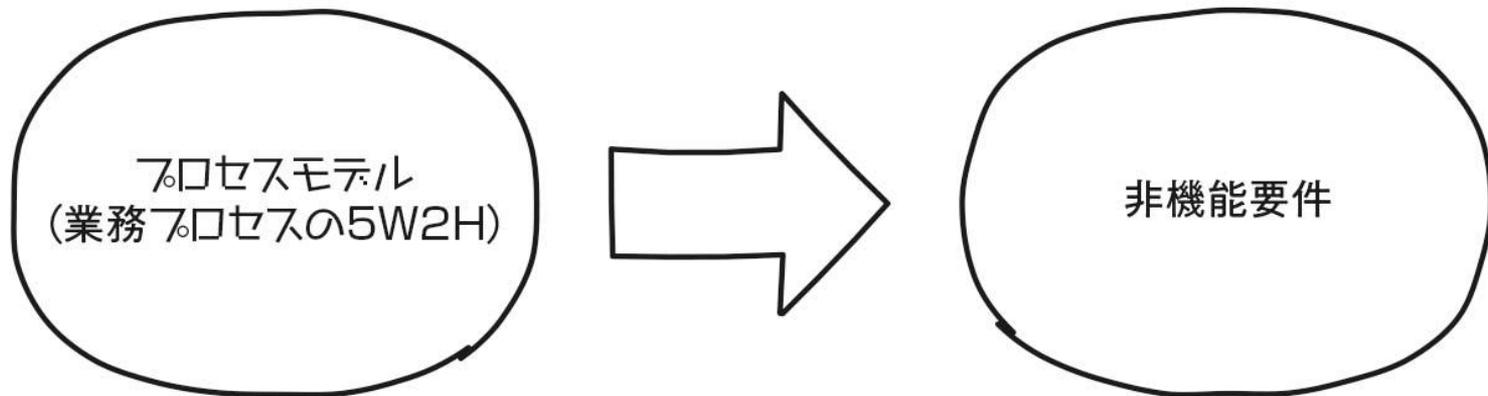
CRUDマトリクス分析

		データ(エンティティ)					
		顧客		受注		受注明細	
プロセス	顧客登録を行う	C	R				
		U	D				
	受注登録を行う		R	C	R	C	R
				U	D	U	D

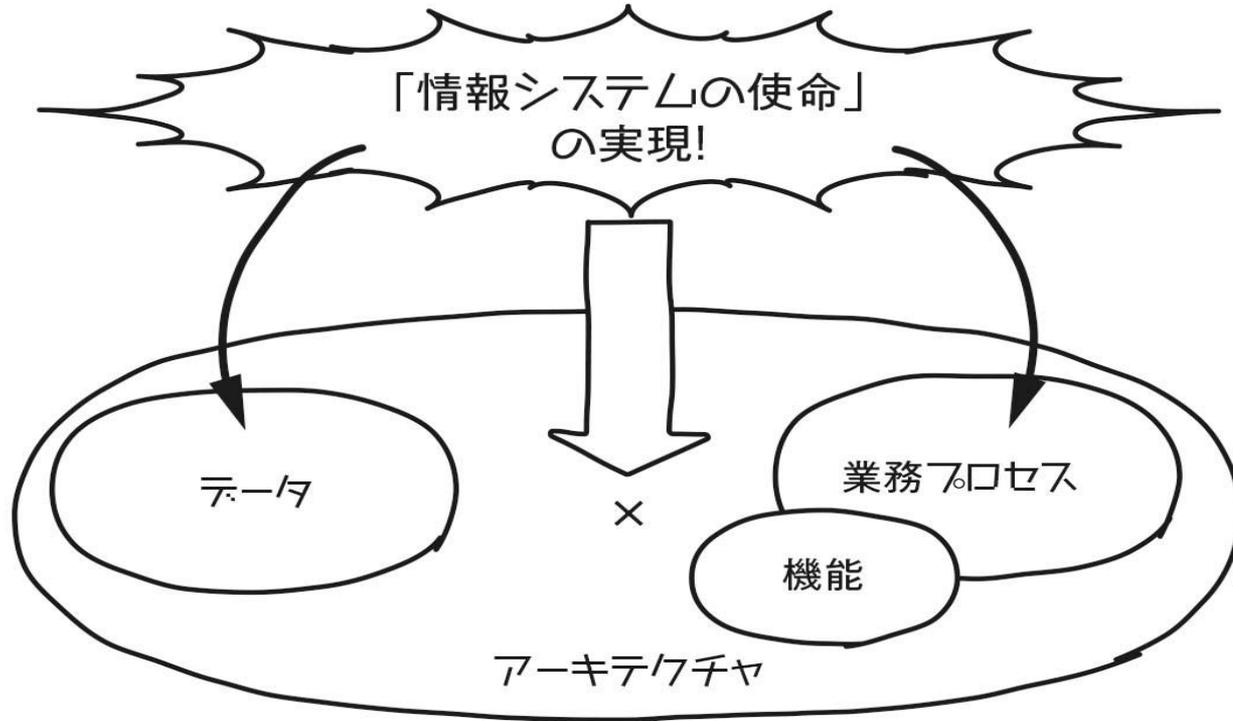
業務プロセス・機能×データのマトリクスを作成



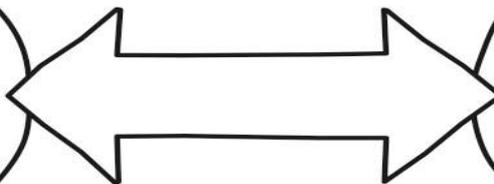
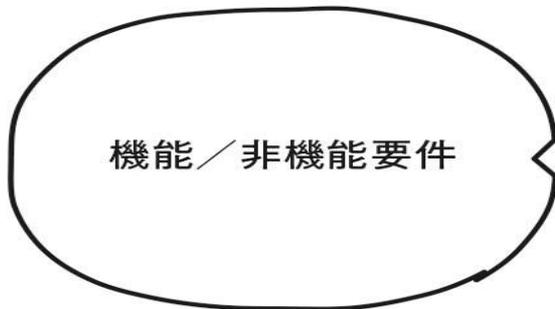
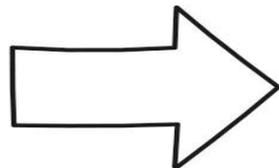
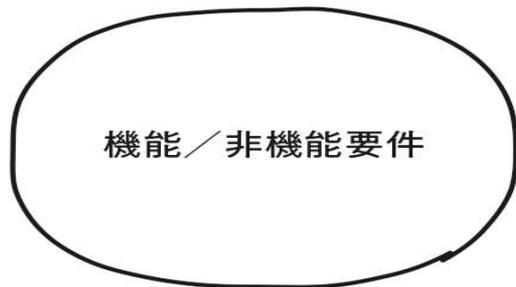
非機能要件の明確化



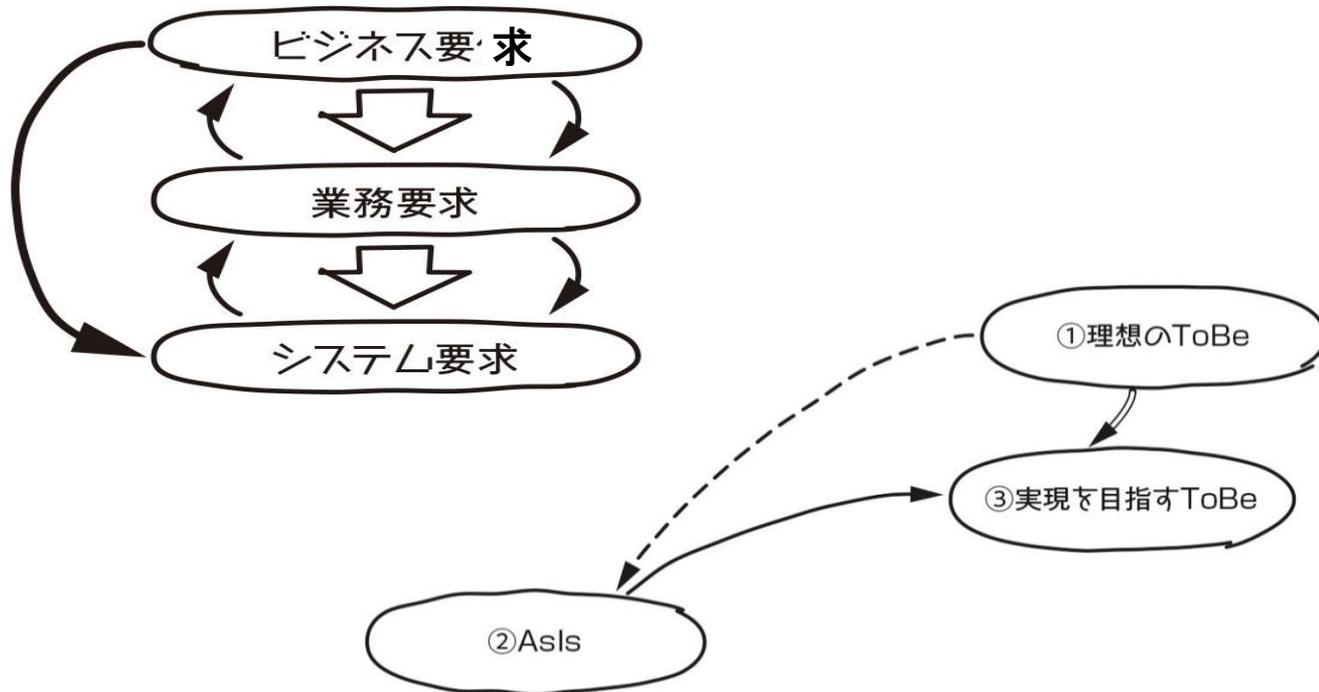
情報システムにおける アーキテクチャの位置付け



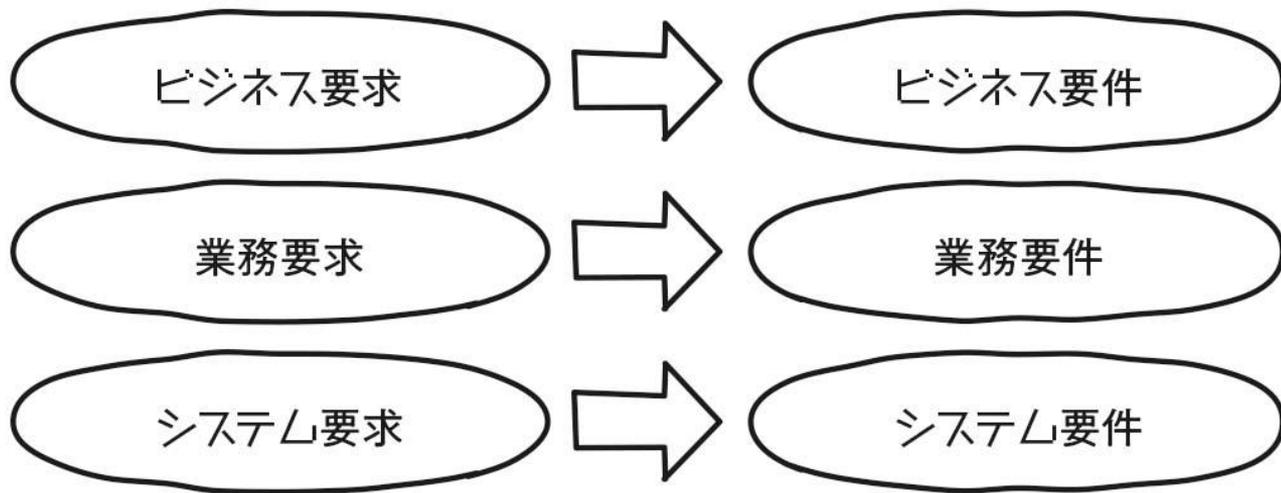
アーキテクチャの明確化



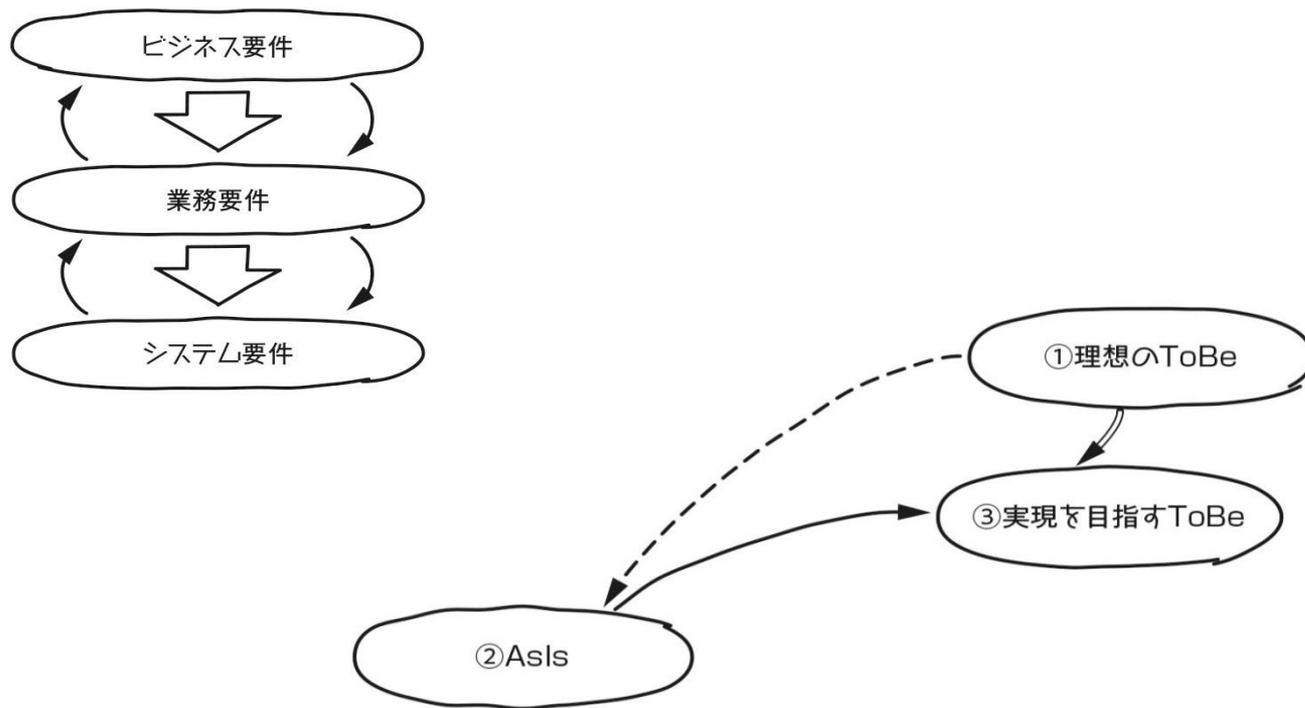
システム要件の妥当性確認 (要求の妥当性)



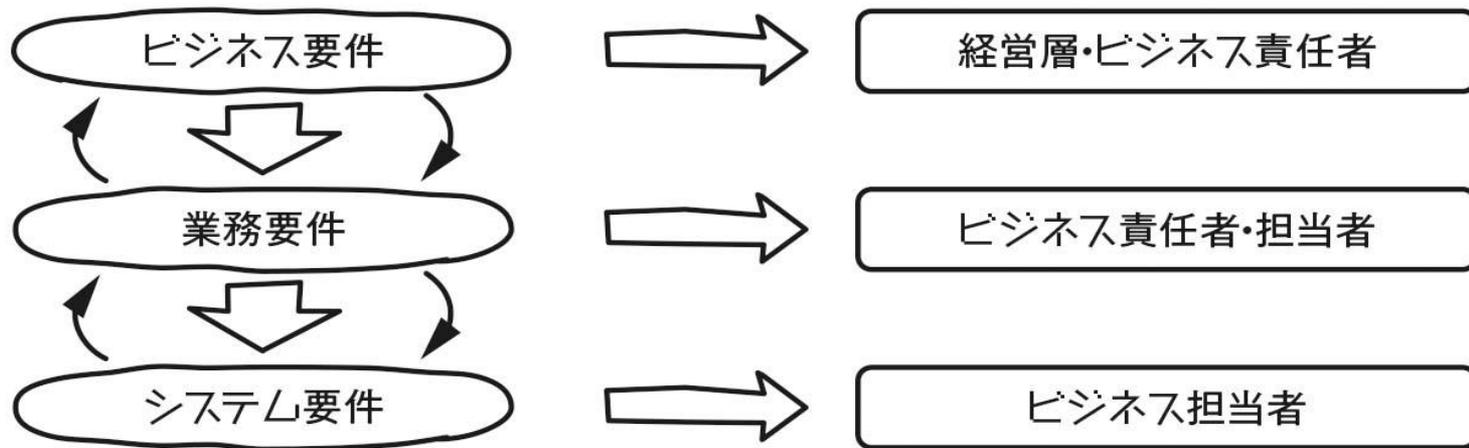
要求から要件への妥当性



要件の妥当性



要件定義の合意形成



まとめ・・・留意すべきこと

「トップダウンで骨組、ボトムアップで肉付け」
を可能にする環境の整備は不可欠



**天高く舞う鳥の視点を持ちつつ
地べたを這って泥臭く仕様を
固める**

「全体最適」の視点を忘れない。
「部分最適」が全体のパフォーマンスを損なう
恐れが高いことを認識しておく。